

## ■第34回プラズマ・核融合学会年会の開催について

2017年の第34回プラズマ・核融合学会年会は、2011および2014年と同様に、プラズマ・核融合学会、日本物理学会（領域2）、応用物理学会（プラズマエレクトロニクス分科会）との共同主催で開催される「Plasma Conference 2017」として開催いたします（今回は、プラズマ材料科学第153委員会も共催）。2010年1月の第144回当学会理事会において、3年に1度の頻度でプラズマコンファレンスを開催することが審議され了承されています。

会議名称：Plasma Conference 2017  
（略称：PLASMA2017）

主催：応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会、日本物理学会領域2、日本学術振興会プラズマ材料科学第153委員会

場所：姫路商工会議所  
（〒670-8505 兵庫県姫路市下寺町43）

期間：2017年11月21日～24日

趣旨：各学協会等に分散して展開されているプラズマ科学の研究活動を総合的に把握し、21世紀におけるプラズマ科学の新たな発展を図るとともに、各学協会等におけるプラズマ科学の研究活動をさらに推進する。

Web: <http://www.jspf.or.jp/PLASMA2017>

上記の趣旨においても、当学会年会として、これまで以上に核融合炉工学分野の会議への寄与が期待されています。核融合炉工学分野の方々におかれましても、Plasma Conference 2017への参加をお願い申し上げます。

一般社団法人プラズマ・核融合学会 会長 小森彰夫  
同 年会運営委員長 上田良夫

## ■PLASMA2017 開催にあたって

Plasma Conference 2017 (PLASMA2017) を2017年11月21-24日、姫路市の姫路商工会議所にて開催するにあたり、ご案内させていただきます。

国内のプラズマ関連学会の共同開催により日本のプラズマコミュニティを発展させることを目的として、我が国のプラズマ関連の基礎から応用まで全てを網羅するPlasma Conferenceを開催してきました。第1回会議は、プラズマ・核融合学会を幹事学会としたプラズマ科学連合の企画により2011年11月に金沢においてPlasma Conference 2011として、第2回会議は、日本物理学会領域2を幹事学会として2014年11月に新潟においてPlasma Conference 2014として、いずれも1000人を越える参加者を集め成功裡に開催されました。そして来る2017年11月には応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会が幹事学会となり、姫路においてPlasma Conference 2017を開催する運びとなりました。

この会議を国内外から注目される会議にするべく、担当する応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会、プラズマ・核融合学会、日本物理学会領域2の関係者は、準備に智恵を絞っています。また、今回は主催団体として日本学術振興会プラズマ材料科学第153委員会が新たに加わりました。

永年にわたり核融合に至る高温プラズマ、プラズマ壁相互作用、炉工学などを研究してきたプラズマ・核融合学会や、プラズマ応用科学を推進してきた応用物理学会、

物理を基軸に理論・実験から診断技術開発までを議論してきた日本物理学会、さらには、各種プラズマとその利用に関して産学官連携を推進してきた日本学術振興会プラズマ材料科学第153委員会とが合同して本会議Plasma Conference 2017を開催することは、プラズマ基礎科学と工学、応用科学と工学、産業応用の融合を飛躍的に促進するものであります。幅広いプラズマ分野の研究を基礎から応用・実用化まで一貫して網羅することで、産学官連携を推進するとともに、大学院生、若手研究者の交流を促進し、育成に活かすことが期待されます。

皆様のご研究の成果をPLASMA2017で発表していただけることを強く願っています。是非ともよろしく願い申し上げます。

Plasma Conference 2017 (PLASMA2017)  
組織委員会委員長 平松 美根男 (名城大学)

### 【Plasma Conference開催の経緯】

PLASMA2017は、2000年から10年間3回にわたって開催された「プラズマ科学シンポジウム (PSS)」がベースとなっています。第3回プラズマ科学シンポジウム2009の開催後、関連する学会関係者の協議により、基礎から応用まで全てを含む会議にすることがまとり、2011年に第1回会議としてPlasma Conferenceが正式に立ち上がりました。